

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人青鳥会 地域生活支援事業所ほほえみ		
○保護者評価実施期間	令和7年1月25日		～ 令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年1月25日		～ 令和7年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが楽しみながら主体的に参加できる活動プログラムをチームで立案している。	5領域に基づいた総合的な支援「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を活動プログラム	総合的な発達支援を行えるように年間で5領域の活動プログラムを計画し、総合的な支援体制を確立する。
2	発達、年齢、特性に応じたクラス分けのなかで、小集団(5名程度)もしくは、個別に支援を行います。スモールステップで支援を実施することは、子どもの「できた」を引き出し、自身や意欲を育む支援を心掛けている。	午前の子どもたちは(1～3歳児)は「基本的な生活習慣の習得や遊びや活動プログラムを通して、支援者やお友達との関わり方を学べるよう意識しています。 午後の子どもたちは(3～5歳児)は、ソーシャルスキルトレーニングや活動プログラムのなかで、自己コントロールを経験できるよう支援している。	子どもの主体性を育むことができるアプローチを心掛ける。(反応的な関わりで、コミュニケーション意欲向上)
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援(一対一)の支援枠が設けられていないこと。	基本的に小集団(5名～8名程度)の受入れをしているが、利用児の特性や発達にあわせての個別と小集団の支援体制の組み合わせが今後は必要。	曜日で個別支援と小集団支援の日を設ける。
2	「きょうだい児」支援が十分に行えていないこと。	年に1～2回ご家族参加のイベントを開催しましたが、きょうだい児へ参加イベントが屋外での活動中止になってしまった。	きょうだい児の参加できる(療育体験)等のイベントを設ける。
3			